



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と  
ひ  
と  
学  
生  
ツムぐ

第39号

2017年8月9日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

## 夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.18

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、  
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

# 学ぶ意欲をもつ中学生 片付けをする中学生

小堂先生の挨拶には「照れ」もあって元気な挨拶ができませんでしたが、SPさんと個で関わる時は、中学生もしっかり心を開いていました。中には、思春期ということもあり、最初は心を開かない中学生もいましたが、そんな時、SPさんは全力で考えます。「どういう関わりをしたら心を開いてくれるか」。教育の現場は、この連続です。毎日、こういう「瞬時の判断」を迫られます。全力で考えます。そして最良と思うことをします。声のかけ方一つでもいろいろです。生徒との距離感の取り方もいろいろです。教育は生き物です。決まったことはありません。その時その時、全力で考え、全力で関わります。

心を開くと、中学生はすぐ学びます。学ぶ意欲を持っています。（意欲を引き出してくれたのはSPさんです。）写真の二人。最初はぼうっとしていました。ぼうっとされたとき、き



とSPさんは困ったでしょうね。でも、このSPさんに出会ったおかげで、心に火がついて勉強が進みました。「SPさんに感謝」です。やる気に火をつけてくれれば、どんどん学びます。素直に教えてもらい、理解し、できた喜びを味わいます。

今回、中学生を教えてくれたSPさん、多くの学びがあったことでしょう。いやな思いもしたかもしれませんが、これこそが現場感覚。決して教育実習では味わえないぐいっの感覚です。中学生をやさしく丁寧に支援してくれて、ありがとうございました。



片付け。中学生、とても動いていましたね。

片付けを一緒にさせてもらったことも、中学生は実は「うれしい」と思っているのです。中学生は頼りにされると喜びます。中学生の参加で、わくわく算数数学に新たな広がりがありました。